

「愛知版・災害ケースマネジメントの手引き」 公開セミナーご案内

この度、東日本大震災で愛知に避難された方一人ひとりを、官民連携で支援してきた経験を、「愛知版・災害ケースマネジメントの手引き」としてまとめました（裏面）。「手引き」をテキストに「災害ケースマネジメント」を実例で学ぶセミナーを開催します。オンライン開催です。

13年間の事例や能登半島地震の事例を交えて、交流・考えます。

下記フォームで
申し込みください



□開催日とテーマ 時間帯：18時10分～19時40分

| 開催日 | テーマ | 担当 |
|-----------|--|--------------------|
| 4月17日（水） | ガイダンス 「愛知版の手引き」の概要 | 向井 忍 *1 |
| 5月22日（水） | 第1章 災害ケースマネジメントの意義 補足：災害ケースマネジメントと個人情報保護 | 栗田暢之 *2 荒見玲子 *3 |
| 6月19日（水） | 第2章 愛知方式の具体例 (1) 官民連携・協働の体制、(2) 民間力を発揮した伴走支援 | 向井 忍 |
| 7月17日（水） | 第2章 愛知方式の具体例 (3) 多様な方法でニーズを掴む、(4) 多分野の専門家の参加 | 向井 忍 |
| 8月21日（水） | 第2章 愛知方式の具体例 (5) 長期に渡る支援、(6) 研修、(7) 県域と市町村の連携 | 向井 忍 |
| 9月18日（水） | 第2章 愛知方式の具体例 (8) 中間支援力を高める、(9) 既存の多様な施策の活用 | 向井 忍 |
| 10月16日（水） | 第4章 災害ケースマネジメントの情報共有と個人情報保護 (1) 当事者に寄り添って支援するルール、(2) 体制 | 荒見玲子 |
| 11月20日（水） | 第4章 災害ケースマネジメントの情報共有と個人情報保護 (3) 現場で支援する運用、(4) 民間含むケース検討 | 荒見玲子 |
| 12月18日（水） | 第3章 愛知方式を実現するために必要な要素 (1) 官民連携、(2) 個人情報、(3) 民間の機動性 | 青田良介 *4 |
| 1月22日（水） | 第3章 愛知方式を実現するために必要な要素 (4) ネットワーク、(5) 支援の輪、(6) 中間支援組織 | 青田良介 |
| 2月19日（水） | 第5章 まとめ（これからのむけての課題） (1) 最後の一人まで、(2) 専門性、(3) 連携、(4) 財源 | 青田良介 |
| 3月19日（水） | セミナーのまとめ | 栗田暢之 |

【各章執筆者】 *1 愛知県被災者支援センター長補佐、*2 愛知県被災者支援センター長・認定 NPO 法人レスキューストックヤード代表理事、*3 名古屋大学大学院法学研究科教授、*4 兵庫県立大学教授

【事例執筆者】 神田すみれ（多文化ソーシャルワーカー）、岡田 雅美（東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや）、河村 諒（日本赤十字豊田看護大学助教）、森本 佳奈（愛知県被災者支援センター事務局長）、今井田正一・菊池 邦子・戸村 京子（愛知県被災者支援センタースタッフ）肩書は執筆当時

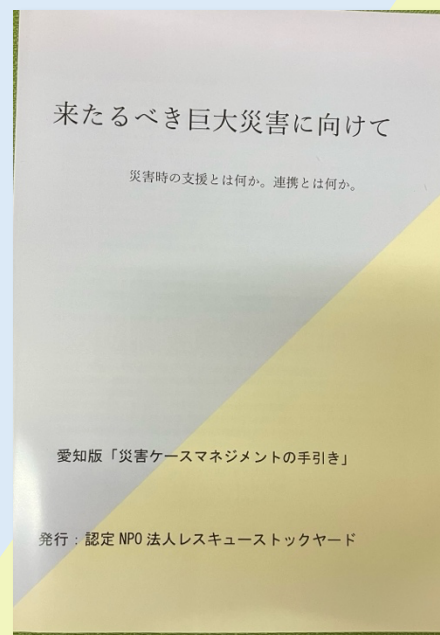
来るべき巨大災害にむけて 災害時の支援とは何か。連携とは何か。

「愛知版・災害ケースマネジメントの手引き」(目次)

第1章 災害ケースマネジメントの意義

第2章 愛知方式の具体例

- 【特色1】官民連携・協働で役割を分担
- 【特色2】民間力を発揮し個々の避難者にあわせた伴走型支援
- 【特色3】多様な方法によって、被災者のニーズをつかむ
- 【特色4】多分野の専門家・NPO が参加した支援を行う
- 【特色5】生活再建の段階に応じた長期に渡る支援を行う
- 【特色6】研修・スキルアップ・理解促進で、支援力を高める
- 【特色7】県域と市町村(日常生活圏)での支援体制を継続する
- 【特色8】多様な支援者と避難者をつなぐ中間支援力を高める
- 【特色9】福祉的支援など既存の多様な施策を活用し支援する



第3章 愛知方式を実現するために必要な要素

- (1)官民連携により被災者・避難者支援に効果的な体制を築くこと
- (2)被災者・避難者の個人情報把握し寄り添い、信頼関係を構築した上で草の根支援を展開
- (3)民間ならではのきめ細やかな支援、機動性を発揮する
- (4)複雑な課題にも対処する専門性のある多様なネットワークを構築する
- (5)支援者やボランティアのやる気を醸成し、**全県(市町村)**挙げて支援の輪をつなぐ
- (6)災害(支援)経験を基に、資源を有機的につなげる中間支援組織を構築する

第4章 災害ケースマネジメントの情報共有と個人情報保護

- (1)発災直後から信頼関係(人間関係)を作りながら、当事者に寄り添って支援するには/ルール
- (2)発災直後から信頼関係(人間関係)を作りながら、当事者に寄り添って支援するには/体制
- (3)現場で支援するために必要な情報共有を、どのように運用し継続的に更新していくか
- (4)ケース検討を専門家だけでなく民間組織やボランティアも含めて行うにはどう運用するか

第5章 まとめ(これからにむけての課題)

- (1)「最後の一人まで置き去りにしない」にいかに取り組むか
- (2)「専門性の継続」と「専門家の関与」
- (3)「官民の連携」はどうあるべきか
- (4)「支援に必要な財源」をどう確保するか

発行日 2024年3月25日

発行 認定NPO レスキューストックヤード

〒461-0001 名古屋市東区泉 1-13-34 名建協2階 TEL 052-253-7550 FAX 052-253-7552

監修 青田良介

編集 愛知県被災者支援センター・パーソナルサポート支援チーム会議・向井忍

DLはこちらから↓

